

国指定史跡 面縄貝塚

伊仙町3万年の歴史

現在、伊仙町と呼ばれる土地に人々がやってきたのは、今から約3万年前、氷河期の頃でした。この人々と今現在伊仙町に住む人々との関係性は不明ですが、その後、今から7,000年前ごろから人々は島で暮らし続けています。このころの人々の暮らしは、サンゴ礁の海から魚や貝を獲り、山ではイノシシを捕らえ、ドングリなどの木の实を集める生活でした。徳之島は大変豊かな環境だったようです。海・山の豊富な食料があったためでしょうか、日本本土で米作りを始めても島の人々は長い間米作りを行いませんでした。

面縄貝塚の貝や骨の道具類



一大製造業 カムイヤキ

このような生活が大きく変わったのが、今から約1,000年前です。日

本本土や今の韓国、中国からさまざまな人

が徳之島にやってきて、米作りやウシの育て

方、鉄作り、さまざまな技術・知識が島の文化

と混ざりあいました。そしてこのとき、伊仙町

でカムイヤキという焼き物が生まれました。カ

ムイヤキはそれまで奄美群島や沖縄地域で作

られたどの焼き物よりも堅い焼き物で、奄美

群島から南の島々で一大シェアを誇ります。

徳之島では、按司と呼ばれる権力者が何人も

現れますが、最終的に徳之島を治めたのは沖

縄島にできた琉球王国でした。

琉球王国が徳之島をどのように治めたの

かは、はっきりとはわかりません。しかし、この

ころから今の伊仙町域に重なる面縄間切り

と呼ばれる行政区が生まれました。そのほか、

各集落の祭祀をつかさどるノロ制度などが始

まりました。



カムイヤキ陶器



国指定史跡 徳之島カムイヤキ陶器窯跡



砂糖蔵跡

伊仙町独立独歩の系譜

江戸時代になると、徳之島は琉球王国に代わって薩摩藩に統治されます。このころ現在の伊仙町域（崎原を除く）を東西に分け喜念噺と伊仙噺の二つの行政区となります。薩摩藩の統治はしだいに厳しくなり、サトウキビの生産を強制し、黒糖を激しく収奪するようになります。このような圧政に激しく反抗した事件が犬田布騒動です。この事件からは伊仙町らしい不条理をよしとせず、困難に激しく立ち向かう姿がよく見えます。

○砂糖蔵跡

現在の面縄小学校の敷地が、薩摩藩へ送る黒砂糖を集め保管する砂糖蔵でした。今では砂糖蔵の石垣が面縄小学校の東側に残っています。

○犬田布騒動記念碑

犬田布騒動は、薩摩藩への上納糖隠への嫌疑をかけられた高齡の福重に代わって、福重の姪婿の為盛が拷問による取り調べを受けたことが発端になります。無実の罪で捕らわれた為盛を解放するために犬田布集落民が立ち上がり、犬田布騒動が始まります。

○喜念権現に建てられた石灯籠

鹿児島島の山川石が使われており、享保14年（1729）己酉7月に薩摩藩から任命された徳之島代官によって寄進したものである



喜念権現に建てられた石灯籠



犬田布騒動記念碑



ダレス声明後の群民大会、泉復協議長感謝の涙（昭和 28 年 8 月 9 日）

そして明治時代になると、鹿児島行政区に入ります。昭和の頃には、第二次世界大戦とその後の米軍統治下というまともな生活もままならない困難に直面することになります。しかし、伊仙出身の泉芳朗を指導者として、伊仙町をはじめ奄美群島全体でこの困難に立ち向かい日本復帰を果たしました。このころはまだ伊仙村でしたが、その後 1962 年に伊仙町となり、今に至ります。



奄美群島日本復帰群民大会



オビトカゲモドキ

希少な動植物たちが息づく

徳之島の豊かな生態系

徳之島は琉球列島の中に位置し、約1,200万年前にはユーラシア大陸の一部でしたが、沖縄トラフや3つの深い海峡の形成、地殻変動によって大陸や他の島々と分断されたことにより、そこに生息・生育していた生物が隔離され固有の種へと進化していきました。

また、黒潮と亜熱帯性高気圧の影響をうけ、温暖な亜熱帯性気候であり、季節風や台風の影響でたくさんの雨が降るため、北部の天城岳(533m)や中部の井之川岳(645m)から犬田布岳(47m)にかけてスダジイ林を中心とする豊かな亜熱帯照葉樹林が広がっており、特に天城岳や犬田布岳付近にはオキナワウラジロガシの群落が発達しています。

徳之島には、世界中で奄美大島と徳之島にのみ生息する「アマミノクロウサギ」をはじめ、徳之島だけに生息する「オビトカゲモドキ」や「トクノシマトゲネズミ」など、数多くの固有種や絶滅危惧種が生息しています。

また、琉球石灰岩や花崗岩等多様な土壌も有しており、世界中でここにしかない「トクノシマテンナンショウ」や「トクノシマカンアオイ」など、固有かつ希少な植物の生育地にもなっています。



トクノシマテンナンショウ



環境学習の様子

世界の宝となった 徳之島の豊かな自然

令和3年7月26日、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されました。

徳之島の世界自然遺産地域は、北部の天城岳と、中部の井之川岳から犬田布岳までの2地点です。

世界遺産とは、昭和47年に国際連合教育科学文化機関（UNESCO）総会で採択された「世界遺産条約」に基づいて、「世界遺産一覧表リスト」に記載登録された遺産のことで、人類共通のかけがえのない財産として、将来の世代に引き継いでいくべき宝物です。

世界遺産には、自然遺産、文化遺産、複合遺産の3種類があり、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は自然遺産の評価基準「生物多様性（国際的にも希少な固有種に代表される種が数多く生育生存する生物多様性の保全上重要な地域である。）」が評価され、日本で5番目の

世界自然遺産となりました。

世界自然遺産登録までの道のりは、琉球諸島が世界自然遺産候補地として選定された平成15年から始まり、平成30年の「登録延期」の勧告を乗り越え、約18年の年月を経て登録となりました。

世界自然遺産は、その価値を将来にわたって維持していくために、適切に保護管理されていることが求められており、徳之島の世界自然遺産地域は平成25年4月に森林生態系保護地域、平成29年3月に国立公園に指定され、国の法律や制度等に基づき保全措置が講じられています。

また、自然環境の保護管理に係る制度を所管する行政機関と地域の団体及び学者等が連携し、科学的知見に基づき適切な保護管理の取り組みを進めています。

徳之島の美しく豊かな自然を未来へ繋げるために



希少野生生物の交通事故の防止対策

徳之島では、アミノクロウサギをはじめ希少な野生生物の交通事故が発生しており、アミノクロウサギの交通事故件数は年々増加しております。

国や県、地元市町村、関係機関・団体等と連携した交通事故防止キャンペーンの実施や交通事故の発生状況・多発地点の周知を行うなど、希少野生動物の交通事故防止に取り組んでいます。



希少野生生物の密猟盗掘・盗採防止対策

徳之島には希少かつ固有な動植物が多く生息・生育していることから、これらの密猟・盗掘・盗採が懸念されています。

密猟・盗掘・盗採は、希少な固有種に対して重大な影響を与えるだけでなく、別の地域に放出・逸出した場合には、その地域の生物多様性を脅かすことにつながります。

そのため、希少な動植物は町の条例で捕獲等を禁止し保護するとともに、国や県、地元市町村、関係機関・団体等と連携して、密猟・盗掘・盗採防止のためのパトロールを実施しています。

外来種防除対策



侵略的外来種は希少種をはじめ、在来種の生息・生育を脅かし生物多様性に悪影響を及ぼす可能性があることから、外来植物は駆除作業を行っています。また、アマミノクロウサギやケナガネズミなどの希少な動物の脅威となっているイヌやネコについては、適正飼養を呼びかけるとともに、ノラネコについてはモニタリング及びTNRを実施しています。

環境学習

自然環境の価値や魅力への理解を深め、保全に対する意識醸成を図るため、住民を対象とした自然体験活動を実施しています。



持続可能な観光利用の推進

観光は、徳之島の豊かな自然の価値や魅力への理解を深める機会となりますが、過剰利用はその価値を損なう要因にもなります。自然環境への負担を軽減させ、また、来訪者に徳之島の良さを深く理解していただくための魅力ある観光コンテンツを造成するエコツアーガイドの育成に取り組んでいます。

運動を通して、交流、健康増進できるまち



徳之島交流ひろば「ほーらい館」は、平成20年に開館した島内唯一の健康増進施設です。隣接する直売所「百菜」と共に、長寿と子宝の徳之島・伊仙町を、これから健康長寿の島として次世代に引き継ぎ、島に暮らすみなさまが、心身ともに健康で楽しく豊かに暮らすため、運動、町民活動、文化芸術活動、子育て、教育を支援するとともに、イベントの実施などによって島の人々の交流を生み出す施設となっています。

平成23年に「ほーらい館」は、温水プール、トレーニングジム、温浴施設をメインに、健康増進のための有酸素運動を安全かつ適切に行うことのできる運動型健康増進施設として、厚生労働大臣の認定を受け、住民が健康的な生活を送れるように運動指導・健康指導を実施しています。

専門のインストラクターによって、参加者の体力・年齢に合わせた運動内容を組み立て、スタジオまたはプールを利用して子どもたちのスイミング教室から、高齢者の体力低下予防のレッスンまで幅広く行っています。令和3年度からは、地域おこし協力隊によるキックボクシングをもとにした「キックシェイプアップ」レッスンを取り入れ、有酸素運動として運動効果の高いレッスンを実施しています。高齢者の利用が多い中、20代〜40代の若い世代の利用者も増加しています。

また、保健センター・地域包括支援センターと連携をしながら、高齢者の運動機能低下を防ぐ介護予防教室も行っています。今後ともさまざまな運動プログラムを作り、運動をとおして幅広い年代で交流し、長寿と子宝の島を支える健康増進施設を目指していきます。



福祉

地域の絆による、支え合い



本町では、高齢者や障がいのある人もない人もお互いに尊重し、地域における支え合いの中で、共に生き、生きがいや社会的役割を持ちながら交流や活動を行ってきました。

その中で、農福連携による生涯活躍・生きがいづくりの取り組みを行っており、農業体験をおして、障がいのある方などがさまざまな人との関わりを持

ち、自信や生きがいを見つけ、社会参画を実現していくことを目的にしています。将来的には就労支援としての役割を担えるよう推進していきます。

また、障がいのある人を介護する家族に対しても適切なサービスを提供し、さまざまな負担も軽減するため、相談・支援・援助を行っています。

各集落においては地域サロンも開催されており、集落でのつながり・支え合いの絆を深める活動が行われています。

このような活動をおして、住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、地域力の向上および地域課題と向き合い、関係機関と連携できる地域包括ケアシステムの確立を目指しています。

将来像である「保健医療福祉充実し、赤ちゃんからお年寄りまで健康に暮らせるまち」の実現を目指し、集落での連帯感、さらには各集落間、そして町全体の連帯感を高め、日々支え合っているよう支援していきます。

